

木をつくる

PCタンク・水管橋が完成

PCタンク 二つ目完成

秋葉山にもう一つの配水池、高区配水池（二号池）が四月に完成しました。

この配水池は、PC構造配水池と標示してありますが、この構造は、昔あった木の桶のつくりとそっくりです。幅二メートル、厚さ十五センチメートル、長さ八メートルのコンクリート板を四形に立てて並べ、外側からタガ（ピアノ線）でしっかり締めつけてあります。

秋葉山に2つ並んだPCタンク

水もれや地震に強く、建設費の安いのが特長で、アメリカで普及した工法です。池の大きさは次のとおりです。

●貯水量……………四、〇〇〇㎡
●内のり……………二七m
●水深……………七m
●地上高（屋根上）……………一〇m
●地下……………一m

ピーク時の 水不足解消

ではどうして二つ目の配水池が必要なのでしょう。配水池は朝食時と夕食時に一

番多く使用されています。夜

間は大変少なくなり、一方、水を製造している浄水場では、二十四時間、一定量しか送水できませんので、朝夕のピークに水が不足しないように、水を貯えておく必要があります。この貯水槽が配水池です。

しかし、貯水しても各家庭の蛇口から、勢いよく水が出なければ水道とはいえません。ですから、当然この配水池は、高台につくられることになりました。高区（PCタンク）の場所は、標高五十四メートル、満水面六十メートルで設計されています。

この高区の受持ちは荻川、

金津、小台、新関などの地区です。給水人口で四万五千人、一日の給水二万四千立方メートルまでまかなうことができ、二つの配水池で、八時間分の貯水量となります。

このほかに町部を受持つ低区（四十五メートル）、秋葉の山手を受持つ高々区（九十メートル）、金津（三十七メートル）の三か所に配水池があります。

が完成しました。この水管橋

にかかっている管路は、水道山（低区配水池）から新町を通り、駅前、善道町方面への配水、金沢町を通り、大安寺の配水、金津方面への配水、滝谷を通り、草水までの配水とほぼ市の東北部一帯の給水をしている重要な配水幹線です。

従来の新津の水道の配水方法は、併用式ポンプ圧を利用して直接配水する直送式と、高台にある配水池の自然水压を利用して配水する自然流下式との両方で行う配水方式）でしたが、この配水幹線ができたことで、全市が自然流下式になりました。これが大きな効用です。

併用式配水にもよい点が多くありましたが、浄水場の送水ポンプの故障が多発するという欠点がありました。配水量には朝夕のピークなど、大きな波があります。この波は水道の水压にも大きな波を生み、この水压変動が直接ポンプに影響して、故障の大きな原因となっていました。

しかし、この水管橋が完成したことで、安定した送水ができる見込みです。

●名前：鋼製橋桁水管橋（山

先水管橋）

●長さ……………四四・六五m

●管径……………四〇〇mm

●管種：水道用モルタルライ

ニングダクタイル鉄管

山先水管 橋も完成

もうお気づきの方も多いいと思いますが、山先橋の横に、真紅に塗装された山先水管橋

お買物、ご用命は市内で

駐車場完備

胃腸・皮膚・肛門(ぢ)・泌尿・X線

山田外科医院

新町2丁目1-6 TEL(2)0432

